

視線入力機器を使用した重度重複障がいの児童生徒へのコミュニケーション支援とアセスメント

日置晋平(大阪府立交野支援学校 教諭)

重度重複の児童生徒へ支援や指導を行う教員の悩みの多くは「児童生徒の意思の表出をもっと促したい。」「コミュニケーションをより豊かにしたい。」「児童生徒の興味関心をもっと知りたい。」などの児童生徒の理解に関して日々悩んでいる例が多い。それを少しでも解消できるように視線入力機器を活用した児童生徒の理解やコミュニケーションの研究に取り組んだ。

1・視線入力で文字を入力する意思を伝える支援と、視線入力機器以外のツールで意思を伝える支援からの選択

視線入力は目の動きだけでパソコンを操作できるようになることから、重度重複の児童生徒でも楽に簡単にパソコンが使えるようになる、と思われる方もいる。しかし、思っている以上に児童生徒の身体は動き、簡単に設定から外れて、微細な操作ができなくなることも多い。重度重複の児童生徒の動きは随意的なものも不随意的なものもある。今回の実践研究で、視線入力機器は強力なツールであるが、誰にでも合うものではないということが強く感じられるようになった。この実践研究で対象となった生徒Aは、取り組む前は本人も視線入力に興味と期待を持っていた。しかし本人の視野の問題から、視線入力による操作は可能なものの、思うように操作はできない様子であった。そこで外部スイッチを使った取り組みを行うと、スムーズに入力をするスキルを身につけ、現在はスイッチを中心に文字入力を行い、授業や学習に役立っている。このように随意的な動きのある者の中には、スイッチなど別の入力方法を選ぶ方が良い者も多い。また生徒Aからは視線入力には無い操作している実感は変え難いものであると感じた。もちろん、スイッチ操作などが難しい者に対して、視線入力が有効なことは間違いない。対象者に応じて適切な方法を選んでいくことが大切と改めて感じられた。

2・視線入力でのアセスメントについての取り組みと、その児童生徒と関わる教員の理解について

肢体不自由教育の難しさのひとつに、心理検査や発達検査が行いにくいことがある。検査の中では被験者である児童生徒が提示されたカードに指をさして解答するものや、具体物を操作する内容の設定がある。しかし肢体不自由の児童生徒では、内容を理解していても指をさしたり具体物を操作したりして解答ができないため、点数が低くなってしまふ。そこで視線入力でのPVT-R 絵画語い発達検査を視線入力で行うように設定を行なった。この実践研究で使用した視線入力のアプリには

右の図のようにスライド形式で記録されていく機能が標準装備されており、記録を見ながら判断に迷うところを検証した。KIDS 乳幼児発達スケールも担任に行ってもらった。これは担任が児童生徒をどのくらいの理解力かと捉えているのかを確認することと、視線入力でのPVT-R 絵画語い発達検査を行うことの信憑性の評価を行えるようにするためである。児童を2人抽出し、検査を行った。児童Bは

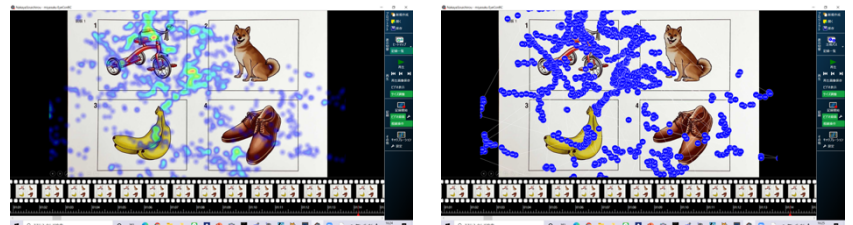
検査当時小学部5年生で生活年齢は10歳11ヶ月。発語は無いが、こちらからの言葉かけに対して表情や動きで反応する児童である。担任からは理解力の高い子供として捉えられている。児童Cは検査当時小学部2年生。生活年齢は7歳9ヶ月であった。児童Bと同じく、発語は無いが、言葉かけに対して笑顔などの表情や、動きで反応する児童である。児童BはPVT-R 絵画語い発達検査では5歳9ヶ月歳、KIDS 乳幼児発達スケールのTタイプの理解言語では3歳6ヶ月と結果に差が出た。対して児童CはPVT-R 絵画語い発達検査は3歳0ヶ月、KIDS 乳幼児発達スケールのTタイプの理解言語では3歳2ヶ月と、大きな差は見られなかった。

2人の児童の検査結果からは、実態に応じた指導と、少し段階の低い指導を行っている例が見つけられた。ここで気になったことは2人の児童の年齢差である。3学年の差だが、小学部という学齢期の中で、3年間で触れる言葉や経験することは大きく違ってくる。その中で児童の成長をしっかり捉えながら実態に合わせた指導や支援を行っていかなくてはならない。普段の関わりの中で内面の成長により注視しながら指導や支援を行っていく必要が感じられた。

3・反省

- 1・ICT機器を使う支援の際には、適切な機器を選択するために、丁寧に実践を行いながら検証する必要がある。
- 2・視線入力を使った検査に関して、今後も取り組みを続け、事例や検証を重ね、精度を上げていく。

視線入力で行った検査を記録した画面



ヒートマップ形式

この形式であれば、全体的によく見ていた箇所が確認しやすい。

注視パス形式

青いポイントには視線が動いた順番が記録されており、視線の動きの奇跡を細かく確認できる。